

中国伝統黒茶実物参考標準見本

=中国黒茶の現在と未来=

<黒茶実物参考標準見本とは>

中国では茶業が急成長を遂げており、中国の荒茶生産量も飛躍的に伸びています。中でも紅茶や黒茶の生産量が急増しています。加えて、茶業への新規参入も多いことから、茶の生産の規範となる規格文書（中国語で「標準（标准）」）の制定が急ピッチで進められ、これによる当局の管理が進みつつあります。

こうした文書による管理に加えて、近年では「実物参考標準見本」と呼ばれる茶葉見本による管理も積極的に行われるようになってきました。茶葉見本は、いわば「メートル原器」のような位置づけのものであり、それぞれのお茶の品質を担保する存在です。

現在生産されている茶葉の実物参考標準見本は、特定のお茶（龍井茶、鉄観音茶等）のみを対象としたものがほとんどでした。その点において、今回の黒茶実物参考標準見本のような、主要な黒茶 21 種類を網羅し、かつ、それぞれのお茶のトップメーカーが見本を提供した標準見本はきわめて稀なものです。

黒茶実物参考標準見本の種類

普洱茶（熟茶、生茶）、沱茶（碗型）、雲南省大理、雲南下関沱茶有限公司

普洱茶（熟茶、生茶）、七子餅茶（円盤型）、雲南省シーサンパンナ、大益茶業集団・勐海茶廠

四川蔵茶、康磚、金尖、芽細、四川省雅安茶廠

広西黒茶、六堡茶、広西梧州茶廠

湖北黒茶、青磚茶、中華老字号、湖北趙李橋錦合茶業有限公司

陝西茯磚茶、官茯茶、陝西省、咸陽涇渭茯茶有限公司

湖南省黒茶、普通 茯磚茶、湖南省、岳陽雲溪区湘臨茶廠

安化黒茶、黒磚茶（天・地・人・和の4枚組）、花磚茶、湖南省、安化雲台山八角茶業

安化黒茶、茯磚茶、湖南省、益陽茶廠有限公司

安化黒茶、千両茶、三尖茶（天尖、貢尖、生尖）、湖南省、白沙溪茶廠有限公司

普洱茶（熟茶、生茶）、沱茶^{だちや}（碗型）、雲南省大理、雲南下関沱茶有限公司

明代に普洱茶を丸めた団茶ができ、清代に碗の形のものができた。名前の由来は、四川省沱江あたりで作られた

普洱茶(熟茶、生茶)、七子餅茶(円盤型)、雲南省シーサンパンナ、大益茶業集團・勐海茶廠

熟茶 7572、生茶 7542、

中華老字号、円盤状の普洱緊圧茶で宋代の「龍鳳団茶」が起源となる。直径 20 cmの円盤形、重さ 357 グラムで 7 枚一束として、竹の葉で包装されることで、この名に。「七子」とは、子孫が多いとの意味で、縁起物として人気がある。

四川蔵茶、康磚、金尖、芽細、四川省雅安茶廠

四川老字号、雅安市で生産される南路辺茶。

康磚:角が取れた長方形で、一つ 500 グラム、黄色い紙(チベット仏教にでは縁起の良い色)で包装、20 枚ずつ、竹で編んだ竹籠で包装

金尖:角のない楕円形、康磚より茎の含量が多い分、柔らかい味

芽細:蔵茶の高級品、貴族、高僧が飲むお茶

広西黒茶、六堡茶、広西梧州茶廠

広西省梧州市蒼梧県六堡郷で生産されたのでこの名になった。

当地の大中葉種で作られる、籠入りの緊圧茶でビンロウの様な香りを持つ。広東、香港、東南アジアで人気がある。広東、香港などでは、下痢、解毒用の薬として重宝される。

湖北黒茶、青磚茶、中華老字号、湖北趙李橋錦合茶業有限公司

有名な川字ブランドで中華老字号の企業。輝かしい過去を持つ企業で、19 世紀末には、青磚茶が辺銷茶市場の大半を占めたこともある。この地から晋商が大量の青磚茶をモンゴルやロシアに運び、「万里茶路」が形成された。

陝西茯磚茶、官茯茶、陝西省、涇渭茯茶

茯磚茶は、もとは、陝西省の涇陽で作られた。1368 年頃、安化で作った黒毛茶(粗茶)を竹かごに入れて涇陽にもって行き、ここで再加工してレンガ状に成型された。(“涇陽磚”と呼ばれた→茯磚茶)涇陽は西安に近く、交通に便利のため、当時(清)官茶(政府指定の茶)の主要品目であった茯磚茶の加工集散地になり、ここで作られた茯磚茶は西安を経て蘭州へ、蘭州から遥かウルムチやイリまで運ばれた。

涇陽で作られているときに発花が起きた(つまり黒茶にある種の菌—金花菌がついて発酵がおきた)金花菌の発酵茶はウイグル族の人たちに大変歓迎された。

1958 年に陝西省から湖南省安化で茯磚茶を作ることになった。2011 年から陝西省でも茯磚茶が復活した。

湖南省黒茶、普通 茯磚茶、湖南省、岳陽雲溪区湘臨茶廠

湖南省の黒茶は、安化県と岳陽市(の臨湘市)の 2 つの地域で生産される。岳陽市では茯磚茶と青磚茶を生産、岳陽市は湖北省羊楼洞に近いので昔から青磚茶の荒茶を作っていた。

安化黒茶、黒磚茶(天・地・人・和の4枚組)、花磚茶、湖南省、安化雲台山八角茶業

黒磚茶：黒磚茶は1939年、日本の九州大学に留学していた彭先沢が湖北羊楼洞の青磚茶の作り方に倣い、湖南省独自の磚茶を作ることに成功したもので、彭先沢は湖南では“黒茶の父”と呼ばれている。湖南黒茶の基礎をなす味、松を燃やした香りがありながらもさっぱりしている

花磚茶：政府の政策により1958年に従来の千両花巻茶を生産停止、同材料を用いて機械で作られたのが花磚茶。千両花巻茶と同じ味にならず

安化黒茶、茯磚茶、湖南省、益陽茶廠有限公司

湖南省には、いくつかの国営企業があるが、代表的なものは、白沙溪（千両茶、三尖茶、等）と益陽茶廠（主に茯磚茶）

茯磚茶は特徴がある黒茶

- ① 独特の発花工程があり、俗称「金花」(中国語名：冠突散囊菌、学術名：ユウロチウム・クリスタタム)と呼ばれる麴菌の一種で黄色い胞子の塊が増殖。金花は茶磚の中に菌の胞子が花のように広がって見える
- ② 活きた麴菌が織りなす様々なハーモニー、効果が顕著⇒「シルクロードの神秘のお茶」と言われる、主にコレステロール、血糖に対して抑制効果あり。
- ③ 独特の味わいと香り(「菌花香」という)を持つ⇒お茶本来の味が魅力的な味わいに変化

安化黒茶、千両茶、三尖茶(天尖、貢尖、生尖)、湖南省、白沙溪茶廠有限公司

千両茶：

- ① 巨大な形状、高さ150cm、重さ36.25kg「世界茶王」と言われる。
- ② 後半の精製工程は、すべて手(脚)作業。
- ③ 乾燥は自然乾燥(ルーフバルコニー、戸外)で90日以上⇒2年の歳月をかけて出来上がる。
- ④ 包装も独特(先人の知恵)、驚きの三層包装(熊笹、棕櫚、竹)⇒深い味わいをもたらす。

三尖茶：安化黒茶の散茶。中でも天尖は1825年に献上茶となった安化黒茶の高級品。松煙香がありサッパリしている。